

さんこ
三顧の礼

はってん
発展 ①

さんこ
三顧の礼 (中国の故事)

昔、中国が三つの国に分かれて争っていた時代、劉備という武将がいました。劉備は、人々のための国を作りたいという大きな志をもっていました。戦を立てる、すぐれた軍師もいませんでした。あるとき、劉備は、山おくの小さな家に、諸葛亮という、たいへんかしこい若者が住んでいると聞きました。劉備は、自分よりずっと若いその人物に、ぜひ力を貸してほしいと考え、自ら、その家まで訪ねていきました。ところが、一度目は留守で、会えませんでした。二度目は、冷たい雪の中を訪ねましたが、やはり会えませんでした。家来たちは、「わざわざ將軍が出向くほどの者ではありません。と、劉備をいさめました。けれども、劉備はあきらめず、三度目にも訪ねていきました。ようやく会えた諸葛亮は、劉備の熱意に心を動かされ、劉備に仕えることを決心しました。その後、諸葛亮は、劉備の国を支える名軍師として大いに活躍しました。この話から、目上の人が、礼をつくして、すぐれた人を何度も訪ねて招くことを、「三顧の礼」というようになりました。

1 劉備が訪ねていった若者の名前は、何ですか。

--	--	--	--	--	--	--

2 劉備が、諸葛亮を訪ねたのは、どうしてですか。

--	--	--	--	--	--	--

3 家来たちが劉備をいさめたのは、どう考えたからですか。

ア 將軍が出向くほどの者ではないと考えたから。

イ 雪が危ないと考えたから。

ウ 諸葛亮が敵だと考えたから。

4 諸葛亮が、劉備に仕える決心をしたのはどうしてですか。

--	--	--	--	--	--	--

5 「三顧の礼」の意味に合うものに、○をつけましょう。

ア 礼をつくして、すぐれた人を何度も訪ねて招くこと

イ 三回あいさつをすること

ウ 三人で協力すること